

学校探訪レポート

～先生はみんなのパーソナルトレーナー！一人一人に寄り添う授業の工夫を見つけました～

校長 古閑 龍太郎

子どもたち一人一人の特性や歩みにどこまでも寄り添い、それぞれの「できた！」という喜びを最大化させる「パーソナルトレーナー」としての先生方の姿を追う本レポート。今回は、特別支援学級で行われた千原早紀先生の英語科の授業（単元名：「Unit2 How do you choose your clothes?」）を参観しました。学習の見通しを持たせる工夫と、個に応じたきめ細やかなアプローチにより、生徒たちが安心して学び、確かな達成感を味わう温かい授業の様子をお届けします！

◆ 見通しを持つ安心感と、個の状況に応じた「問い」のグラデーション

千原先生の授業には、在籍する生徒たちが戸惑うことなく、安心して学習に没頭できるための細やかな配慮が息づいていました。授業の冒頭、先生は「今日学習する全体の流れ」を黒板に大きく明示。特別支援教育において極めて重要とされる「視覚的な見通しの確保」をはじめに行うことで、生徒たちは「次に何をするのか」をあらかじめ理解し、落ち着いて活動のスタートを切ることができていました。

展開の中で特に見事だったのは、生徒たちの習熟度やその時々状況に合わせた「発問の工夫」です。一律の問いを投げかけるのではなく、生徒一人一人の表情や進捗をじっくりと見つめながら、その子が「少し頑張れば届く」絶妙なステップで問いの難易度や角度を変化させていました。並び替えの英作文に挑む場面でも、難しさを感じている生徒にはそっとヒントを差し出して並走し、自力で正解を導き出せるよう粘り強くサポート。当てられた生徒が自信を持って自分の解答を発表し、「正解できた！」と笑顔を見せる瞬間、教室には心地よい達成感が満ちあふれていました。

◆ デジタルが支える「自分のペース」と、個の思考を遮らない最適な伴走

授業の後半では、学習者用端末を効果的に活用した、個別最適な学びの時間が保障されていました。デジタルツールを駆使することで、生徒たちは周囲のペースに惑わされることなく、自分に合った速度でネイティブの発音を確認しながら、納得のいくまで課題に取り組んでいました。

経験を重ねることで「自力でできた」という成功体験を丁寧に積み重ねさせ、子どもたちの自己肯定感を育んでいく千原先生の指導スタイルは、まさに一人一人の専属トレーナーそのものでした。

◆ おわりに

学習の見通しを整え、オーダーメイドの発問とデジタル活用によって、生徒一人一人の心に「自信」という確かな灯をともしてくださった千原先生。ミスを恐れず、安心して前を向く子どもたちの姿に、日々の丁寧な関わりの深さを実感いたしました。それぞれの歩みを温かく見守り、自信を持って表現する達成感を支えてくださる日々の授業づくりに、心から感謝いたします。いつも本当にありがとうございます！